

災害に関わる2編の論文が土木計画学研究委員会から表彰されました (2017/11/4)

テーマ：災害の社会的影響、津波避難、ビッグデータ

場所：岩手大学、ホテル・メトロポリタン盛岡

URL：http://www.isce-ip.com/upload/conference/ip56_ver20171007.pdf

公益財団法人土木学会土木計画学研究委員会は、昨年度から、土木学会論文集 D3分冊特集号に投稿された論文の中から評価の高い論文を選び、秋に実施される土木計画学研究発表会で表彰するとともに、優秀論文セッションの中で通常の論文よりも長い時間を使って発表と討議を行う制度を設けました。

本年度は、217編の投稿論文のうち113編が審査を通過し論文集に登載されますが、その中から5件の優秀論文が選定され、盛岡市で開催の第56回土木計画学研究発表会で表彰および論文発表が行われました。5編の受賞論文の中の2編は、当研究所の奥村誠教授（人間・社会対応研究部門）が被災地支援研究分野において実施した研究の成果をまとめた災害関係の共著論文であり、11月3日（金）の午前中に約60名の聴衆を迎えて1編45分ずつの論文発表と討議が行われ、11月4日（土）の懇親会の中で表彰式が行われました。

2編の受賞論文の著者および題目は以下の通りです。

- 1) 奥村誠・片岡侑美子・金進英：津波遭遇リスクを最小化する自動車避難最適化モデル
- 2) 山口裕通・奥村誠・金田穂高・土生恭祐：携帯電話GPS情報からわかる熊本地震による行動パターンの被災・回復過程



2編の優秀論文セッションでの発表と表彰式の様子